メッセージアウトライン
マタイ２８：１～２０「イエス・キリストの復活」

[1]「さて、安息日が終わって週の初めの日の明け方、マグダラのマリアともう一人のマリアが墓を見に行った」
　イエスはユダヤ人たちの不当な裁判によって十字架につけられ、墓に葬られた。 墓は大きな石によってふたをされ、封印された。そして墓にはローマ兵が配置され、番をしていた。(27 章)
これでイエスによって始められた新宗教とその追随者たちの運動は終わってしまったように見える。しかし、そうではなかった。
イエスは金曜日に十字架につけられた。そして、ここで言われている「安息日」とは土曜日のことであり、週の初めの日とは日曜日になる。この日の明け方、マグダラのマリアともう一人のマリアが墓を見に来た。これはイエスのからだに香料を塗るためであった。→マルコ 16:1, ルカ 24:1
この時、男の弟子たちはだれも来ていない。彼らは皆、次は自分たちが捕らえられはしないかと、エルサレムの隠れ家で息をひそめていたのである。いざとなると女性は強い。墓に来た彼女たちは「だれが墓の入口から石を転がしてくれるでしょうか」と話し合っていた。→マルコ 16:3　墓の入口には墓の持ち主であるアリマタヤのヨセフによって大きな石でふたをしてあった。それは一人や二人ではとても動かせないほどの重く大きな石であった。
[2]「すると見よ、大きな地震が起こった。主の使いが天から降りて来て石をわきに転がし、その上に座ったからである」
　これは石が転がされたことよりも、主の使いがそこに座ったことによって起こったと思われる。普通、石が転がされたくらいで大きな地震が起こることはない。
[3-4]「その姿は稲妻のようで、衣は雪のように白かった。その恐ろしさに番兵たちは震え上がり、死人のようになった」
　墓の番をしていた勇猛なローマ軍の兵士たちも、稲妻のように輝き、雪のような白い衣をまとった姿の主の使いの現われの前には、なすすべもなく、ただ震え上がるだけであった。
[5-7]「御使いは女たちに言った。『あなたがたは、恐れることはありません。十字架につけられたイエスを捜しているのは分かっています。ここにはおられません。前から言っておられたとおり、よみがえられたのです。さあ、納められていた場所を見なさい。そして、急いで行って弟子たちに伝えなさい。【イエスは死人の中からよみがえられました。そして、あなたがたより先にガリラヤに行かれます。そこでお会いできます】と。いいですか、私は確かにあなたがたに伝えました。』」
　イエスが「前から言っておられたとおり」とはイエスが弟子たちに何度もこの死からのよみがえりのことを告げておられたことである。→マタイ 16:21, 17:22~23、20:18~19 しかし、その時、弟子たちは理解できていなかった。
並行箇所のルカ 24:3 では「そこで中に入ると、主イエスのからだは見当たらなかった」と

書かれている。
イエスはもう墓の中にはおられないのである。
主の使いはさらに弟子たちにこのイエスの死よりの復活のことと、彼らより先にガリラヤに行かれ、そこでお会いできることを伝えるように告げた
ガリラヤでの再会はイエスがゲッセマネの園へ行く途中で弟子たちに語られたことの成就である。→マタイ 26:32　イエスが公生涯の最初に福音を宣べ伝えたのはイスラエル北部の田舎のガリラヤ地方であった。イエスはそこで十二弟子を召されたのであり、そこが彼らの故郷であり、イエスのガリラヤでの活動はイザヤ書の預言の成就であった。→イザヤ 9:1~2、マタイ 4:12~17　イエスはそのなつかしいガリラヤに弟子たちを集めて、死より復活されたご自身の姿をあらわして、彼らを力づけ、福音を宣べ伝えて人々を弟子とすることを託されるのである。
[8-10]「彼女たちは恐ろしくはあったが大いに喜んで、急いで墓から立ち去り、弟子たちに知らせようと走って行った。すると見よ、イエスが「おはよう」と言って彼女たちの前に現れた。彼女たちは近寄ってその足を抱き、イエスを拝した。イエスは言われた。『恐れることはありません。行って、わたしの兄弟たちに、ガリラヤに行くように言いなさい。そこでわたしに会えます。』」
　彼女たちが弟子たちに知らせようと走って行った時に、なんと今度は主の使いではなく、イエスご自身が彼女たちの前に現れた。そして親しみをもって「おはよう」と言われたのである。復活のイエスの最初の現われは女性たちにであった。
「彼女たちは近寄ってその足を抱き、イエスを拝した」…イエスは幽霊ではない。ちゃんと体を持っておられる。そしてイエスは彼女たちの礼拝行為を受け入れられた。聖書は御使いも人間も礼拝の対象ではないことを教えている。→黙示録 19:10、使徒 14:11~15、出エジプト 20:3~6 礼拝すべきお方は神のみなのである。すなわち彼女たちの礼拝を受けいれたイエスは神（三位一体の子なる神）であるということがここではっきり分かる。イエスが単なる人間であったなら、このような礼拝行為は拒まれたであろう。
イエスは御使いと同様、弟子たちにガリラヤへ行くように伝えるように言われた。
[11-15]「彼女たちが行き着かないうちに、番兵たちが何人か都に戻って、起こったことをすべて祭司長たちに報告した。そこで祭司長たちは長老たちとともに集まって協議し、兵士たちに多額の金を与えて、こう言った。『【弟子たちが夜やって来て、われわれが眠っている間にイエスを盗んで行った】と言いなさい。もしこのことが総督の耳に入っても、私たちがうまく説得して、あなたがたには心配をかけないようにするから。』そこで、彼らは金をもらって、言われたとおりにした。それで、この話は今日までユダヤ人の間に広まっている」
　彼女たちがエルサレムの町へ行くより早く、墓の番兵たちが戻って、起こったこと全部を祭司長たちに報告した。それを聞いた祭司長たちはどうしたか。彼らはイエスの死よりの復活を認めて、自分たちが間違っていた。イエスこそ真の神、救い主であったと告白し、悔い改めたか。そうではない。彼らは長老たちと相談し、ローマ兵たちが夜に眠っている間にイエスの弟子たちが来て、イエスの死体を盗んで行ったと言うようにと教えた。本来、ローマ兵が職務中に眠り込んで、見張りの対象であった者がいなくなったら、死刑である。→使徒 12:19　祭司長たちにとっては現体制の維持、自らの保身こそ最も大

事なことであった。神に仕えるべき祭司長たちがこの姿である。ここには神に従い、真理を求め、間違いがあれば正すという姿勢は見られない。人間の心の頑なさ、罪深さというものがはっきりと現れている。
そして彼らの考えだした嘘が、この福音書が書かれた時に至るまでユダヤ人たちの間に広がっているのであった。 しかし、よく考えて見なければならない。
①イエスの弟子たちは、この時、捕えられるのではないかとエルサレムの隠れ家で閉じこもっていた。
　彼らにイエスの死体を盗み出すような勇気はなかった。
②複数のローマ兵が墓の番をしており、彼ら全員が職務中に眠り込むということは考えられない。仮にそうであったとしても、墓の入口にふたをしてある重い大きな石をどうやって動かすのか。そしてもし動かすことができたとしても、石が転がった音と振動でローマ兵は気がついたはずである。
③日曜日の朝、イエスの葬られている墓に行ったマリアたちが墓の場所を間違い、空の墓に行き、イエスが死よりよみがえったと誤解した。しかし、彼女たちは墓の場所をしっかり覚えていた。→27:61
④イエスの弟子たちが間違った空の墓に行き、イエスが死からよみがえったと元気づき、キリスト教を宣べ伝えて行った。しかし、それならユダヤ人たちがイエスが葬られている本当の墓へ行き、イエスの死体を彼らに見せればすべては終わる。
⑤それでもあえてイエスの弟子たちは、イエスが死よりよみがえって自分たちと会って、福音を宣べ伝えるように言われたと主張し、伝道活動をしていったならばどうなるだろうか。弟子たちの多くはこの後、キリストの福音を宣べ伝えたということで捕えられ、殉教することになる。彼らは自分たちが作り出したうそのために死ぬことになる。そんなことをして何の益になるのか。

イエスは本当に死からよみがえられたという以外に答えはない。キリスト教はこの空の墓からはじまったのである。
[16-20]「さて、十一人の弟子たちはガリラヤに行き、イエスが指示された山に登った。そしてイエスに会って礼拝した。ただし、疑う者たちもいた。イエスは近づいて来て、彼らにこう言われた。『わたしは天においても地においても、すべての権威が与えられています。ですから、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。父、子、聖霊の名において彼らにバプテスマを授け、わたしがあなたがたに命じておいた、すべてのことを守るように教えなさい。見よ。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいます』」
このようにして彼らは救いの福音を宣べ伝えることをイエスによって託され、 この後、彼らはエルサレムに戻り、当時の世界中にイエス・キリストの福音を宣べ伝えて行くことになる。その詳しい展開は「使徒の働き」に記されている。
今、この福音は文字通り全世界に宣べ伝えられている。
私たちの罪の身代わりとして、十字架につけられ、墓に葬られ、死より復活されたイエス・キリストを自分の救い主と信じる人は誰でも罪を赦され、さばきを受けることなく、神のものとされる。そしてこの地上では豊かな人生を送り、地上の生涯を終わってもイエス

が死より復活されたように、決して朽ちることのない新しい体をいただいて死より復活し、神のもとで永遠に喜びと賛美のうちに生きる者とされるのである。
→ヨハネ 3:16